

# 令和6年度 学校評価報告書

園 名	三 輪 幼 稚 園
-----	-----------

## 1 教育目標

『元気いっぱい みわっ子』 ・友達と協力できる子どもを育む ・やさしく思いやりのある子どもを育む ・自分で考えて行動する子どもを育む (八景中学校区共通目標) 人も自分も、学校(園)もふるさとも 大切にできる子
--

## 2 重点目標

「一人一人の育ちと学びをつなぐ」 ～学びの芽生えを育む教師の援助の あり方を探る～
---

## 3 自己評価結果

分野領域	評価項目	幼稚園の取組状況・改善の方策
教育課程	学びの芽生えを育む保育内容の工夫 ・安心感、居場所感を基盤に、自ら考え、夢中になって遊び込むことができる環境構成や援助の工夫 ・3年間を見通した、個の成長と集団の育ちの保障	・幼児が夢中になって遊び込む中で育まれる「学びの芽生え」を見取り、育ちを可視化しながら環境構成や援助の工夫に努めた。 ・引き続き、より深い幼児理解に努め、幼児が安心感、居場所感を基盤に、自分たちで考え、選び、決めることができる環境構成や援助の工夫に努める。
	しなやかな心や体を育む取り組みの工夫 ・「わくわく体操」を基盤とした体づくりの推進 ・幼児の興味関心に応じ、多様な動きが経験できる場づくりの工夫	・「わくわく体操」をはじめ、友達と楽しく体を動かす多様な遊びの経験により、一人一人が自分なりの目標をもち、意欲や達成感など、個々の内面の育ちが見られた。 ・園生活や遊びの中で経験している体の動きを捉え、発達段階に応じた基本的な運動の種類や動きのバリエーションを経験できるように遊びや活動内容の工夫をしていく。
特別支援教育	幼児一人一人の発達や課題に応じた、きめ細やかな支援の工夫	・一人一人の幼児の内面理解や発達の特性の理解に基づき、援助のあり方を教職員で共通理解し、個に応じた支援が充実するように努めた。 ・引き続き、保護者、関係諸機関と丁寧な連携を行い、個に応じたきめ細やかな支援の充実に努める。

## 4 学校関係者評価

・幼児が、話し合いの中でお互いの意見を大切にし、共に育ち合う姿が見られた。縦割り保育の中で年長児を中心に、年少、年中の子ども達が年長児をモデルに成長していく姿も見られた。自分達にできることを考え、行動に移していくことができていた。
・芝生の園庭で自由に遊ぶ中で、基本的な体の使い方を体得することができた。 ・わくわく体操等を通して様々な体の動きを経験することで姿勢の保持ができる時間が増えている。
・一人一人の幼児のありのままの姿を受けとめ、支援が行われている。 ・教師が幼児一人一人を大切に保育することで周囲の友達への理解が深まり、幼児にとって居心地のよい園となっている。

(別紙様式 2)

<p>保護者・地域との連携</p>	<p>地域のよさを生かした園運営の工夫          ・豊かにつながりを構築していくことができる活動内容、情報発信の工夫</p>	<p>・幼児の興味や関心、育ちと学びの姿、園の取り組みの様子を発信することで園、保護者、地域が協働し、子どもへのまなざしを共有できるように努めた。          ・保護者や地域からも子ども達の「やってみたい」という思いが実現できるよう協力を得ながら教育活動を進めていくことができた。          ・今後は、幼児の姿を分かりやすく発信できるよう、写真掲示や通信の内容を工夫し、豊かな育ちにつながるよう交流活動の工夫に努める。</p>
<p>子育て支援</p>	<p>親と子の育ち合いの場としての役割や機能の充実          ・親と子が安心して集える場と情報発信の工夫          ・未就園児との交流、園庭開放等における支援の充実          ・子どもの育ちを支え、保護者に寄り添う子育て相談の充実</p>	<p>・情報発信の工夫に課題があると感じる。次年度は通信、掲示等を活用しながら子育て支援の充実に取り組んでいきたい。          ・地域、保護者の参画を得て、折り紙教室、お茶会を開催した。子育て家庭が集い、安心して子育ての相談や悩みを話せるような場となった。引き続き、保護者、地域の方々の参画をいただき、親と子の育ちの場としての役割や機能の充実を図る。</p>
<p>校園所連携</p>	<p>学びの連続性を意識した保幼小の接続の推進          ・保幼、保幼小、幼小交流の推進          ・異校種の職員連携交流の工夫          ・中学校区連携推進への参画</p>	<p>・地域の保幼小の職員がつながり、幼児期の「学びの芽生え」や育まれつつある資質、能力を共通のまなざしで見取ることができるようになり、互いの教育の充実につながった。          ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具現化を図り、接続カリキュラムの見直しを行いながら、引き続き、学びの連続性を意識した保幼小の接続を推進していきたい。</p>

<p>4 学校関係者評価</p>
<p>・幼児の興味、関心を教師がキャッチし、発信することで、保護者や地域の協力が得られやすくなっている。今後も、園の様子や子ども達の思いを発信することで継続して保護者、地域との連携を図ってほしい。          ・カブトムシハウス、ビオトープ、土作り等、地域の方々の支援が子ども達の豊かな体験につながった。</p>
<p>・折り紙教室や、お茶会等を通して保護者が集い、子育ての悩みや情報交換の場ができたことはよかった。今後も未就園児の子育て支援や幼児教育の大切さを情報発信していくことに期待する。</p>
<p>・小学校との連携、引継ぎの取り組みは評価できる。          ・今後も、子どもの育ちの連続性を大切にした幼小連携、接続を継続してほしい。</p>

5 総合的な評価結果

・幼児の興味、関心を探り、自分たちで選び、考え、工夫しながら遊び込める環境構成に努めた。幼児の育ちに願いをもち、明確な意図をもって援助を行うことで幼児が友達と関わり合いながら目的を実現するために粘り強く取り組む姿が見られるようになった。  
 ・地域の保幼小の職員がつながり、遊びの中での「学びの芽生え」や育まれつつある資質、能力を共通のまなざしで見取ることができるようになり、互いの教育の充実につながった。  
 ・保護者、地域の協力を得ながら教育活動を進めていくことができた。今後はさらに情報発信の工夫をし、丁寧に繋がりを構築できるように努めていく。

6 総合的な学校関係者評価

・一人一人の幼児のありのままの姿を受けとめ、発達や課題に応じた支援を行うことができています。幼稚園が幼児にとって居心地のよい場となっている。  
 ・幼小の連携、接続の取り組みは評価できる。子どもの育ちの連続性を大切にした取り組みを継続してほしい。  
 ・今後も、保護者が集い子育ての悩みを話せる場や情報交換の場の充実と、情報発信の工夫を期待する。  
 ・今後も保護者や地域と連携しながら、幼児が多様な人やものやできごとに出会い、豊かにつながりを構築していく保育を期待する。